

私の一文字



ユーグレナ 取締役社長
出雲 充

2019年度より第1期ノミネートメンバー、
2021年4月経済同友会入会。
21年度教育改革委員会副委員長。



「縁」で事業を行う、活動する

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。第1期ノミネートメンバーにご登場いただく第2弾は出雲充ユーグレナ取締役社長です。

岡西 「縁」という字は元々織物の縁飾りのことですが、この縁飾りが広がることから、「縁が広がる」と言うようになりまし。出雲さんは大学1年生の時にバングラデシュのグラミン銀行でインターンを経験され、その時出会ったムハマド・ユヌス先生とのご縁が今につながっているのですね。

出雲 いただいた書、「払い」がミドリムシの鞭毛みたいで格好いんです。

バングラデシュは貧しい国で、農家は一日中農作業をして収入は100円ほど、年収は4万円もなかったのですが、グラミン銀行ではその年収が3万円ほどの農家に年収にあたる3万円を貸しました。普通の銀行は貸してくれませんが、ユヌス先生は「絶対大丈夫」と、貸してあげたのです。農家もまとまったお金があると、いろんなことができます。

僕が行った所では、そのお金でヤギを買っていました。乳搾りをしてミルクを販売すると、1日500円の収入になる。ヤギパワーで収入が5倍になるのです。そうすると、年収が15万~20万円になり、皆3万円返済してくれ、しかもヤギは残る。その後もっと良い肥料を買ったり、家を建て替えたりして暮らしが豊かになる。貧困撲滅は国連主導の持

続可能な開発目標 (SDGs) の「1丁目1番地」ですが、ユヌス先生はそうやって地道にマイクロファイナンスを行って貧しい農家に融資し続け、900万人を貧困から救ったのです。

実は昨晚、これも本当にご縁だと思うのですが、ユヌス先生と国際会議で対談しました。2014年からは、ユーグレナでミドリムシ入りのクッキーをバングラデシュの子どもたちに届け、栄養失調をなくす事業を行っています。

岡西 出資をお願いした企業501社目にして、伊藤忠商事から賛同を受けています。この出会いも大きかったのでしょうか。

出雲 一番多く聞かれる質問は、「どうしたら、1社目に伊藤忠とのご縁があったと思いますか」というものです。しかし、1社目が伊藤忠だったら、私も気付かずに素通りしていたと思うのです。500回駄目だった経験があるから、501回目の伊藤忠とのご縁を今でも大切にしています。

岡西 今後の経済同友会活動への抱負をお願いします。

出雲 私は「ノミネートメンバー」という新しい制度の1期生として、選んでいただきました。そうした素晴らしいご縁をいただいた経済同友会の発信力を高めることを、今まで以上にやっていかなければと思っています。経済同友会では未来のさまざまな問題をディスカッションしており、今日も環境・エネルギー委員会で、2050年にCO₂排出ゼロを目指す政策について90人のメンバーで討議していたのですが、そこに40代は私1人だけ。10代、20代、30代は1人もいません。10、20、30代と50、60、70代の人たちを経済同友会活動で結び付け、ご縁づくりをするのが私の使命だと思っています。



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。